

アメリカ海軍艦載機の日本空襲

1945年2月の東京空襲から連合軍捕虜の解放まで

工藤 洋三

幅 250mm × 高さ 240mm 並製本カバー掛け 221 ページ 定価 2800 円 + 消費税 ISBN978-4-9907248-5-6 2018 年 7 月 27 日発行



中島飛行機武蔵製作所に対する攻撃(2月17日)



空母エセックスの戦闘指揮所(4月1日)



艦載機の攻撃を受ける青葉(7月28日)

艦載機空襲の背景、目的、目標をわかりやすく解説

1945年2月に艦載機で東京を空襲したのは、アメリカ海軍第5艦隊に所属していた第58任務部隊で、スプルアンス提督が指揮をとった。3月の九州の飛行場攻撃、呉・神戸の艦船攻撃や、4月の戦艦大和をはじめとする日本艦隊攻撃、5月の九州攻撃も第58任務部隊が行った。

1945年5月末に第5艦隊が第3艦隊と名称変更しハルゼー提督が指揮をとるようになると、第58任務部隊も第38任務部隊と名称変更して、戦争の最末期、レイテから北上して日本各地を攻撃した。

本書では、日本本土空襲に当たって、任務部隊を構成する任務群ごとに攻撃目標の割り当てがあり、戦闘機掃討と打撃戦を組み合わせた3段階の攻撃戦術により作戦が計画されていたことを示した上で、それぞれの空襲について解説を試みた。

多くの写真と図表で米海軍の艦載機空襲を解説

アメリカ海軍艦載機による日本本土空襲の背景や直接の目的、目標を理解するために、実際に空襲を行った部隊や空母の戦闘報告書だけでなく、上部の任務群や太平洋艦隊の報告書の内容を紹介した。

アメリカ国立公文書館での調査により、艦載機空襲と関連した多くの写真を収集し掲載した。約400枚の写真と100を超える図表により、艦載機空襲による日本本土空襲をわかりやすく解説した。

艦砲射撃や英国艦隊艦載機による空襲も収録

艦載機による空襲のほかに、釜石、室蘭、日立、浜松に対する艦砲射撃の背景や目標、攻撃方法についても解説し、戦争最末期に米海軍第38任務部隊と共同で日本空襲を行った英国艦隊についても紹介した。また戦闘終了後に米海軍が行った連合軍捕虜収容所に対する補給作戦、捕虜の解放と引き揚げについても紹介した。

CONTENTS 目次

第1章	はじめに	1
第2章	第58任務部隊の艦載機、東京を初空襲	15
第3章	沖縄作戦支援のため九州の飛行場を攻撃	41
第4章	4月7日の戦艦大和攻撃	69
第5章	沖縄作戦の終了と日本本土空襲の準備	81
第6章	第38任務部隊、東京を空襲	99
第7章	北上して東北、北海道を攻撃	111
第8章	横須賀港の戦艦長門を攻撃	125
第9章	7月の西日本攻撃	133
第10章	艦砲射撃	155
第11章	英国艦隊の日本空襲	167
第12章	戦争最末期の艦載機空襲	179
第13章	連合軍捕虜の解放と引き揚げ	203
	参考資料	211
	索引	217
	あとがき	221